

エコアクション21 環境経営レポート

対象期間 2024年4月1日～2025年3月31日



エコアクション21
認証番号 0007548

ASPEC

株式会社 アスペック

2025年7月7日 作成



目次

1. 組織概要	1
2. 認証・登録の対象組織・活動	2-3
3. 主な実績	4
4. 環境経営方針	5
5. 環境経営目標及びその実績	6
6. 環境活動計画	7-16
7. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容	17-25
8. 環境関連法規制の遵守状況	26
9. 代表者による全体の評価と見直し	27



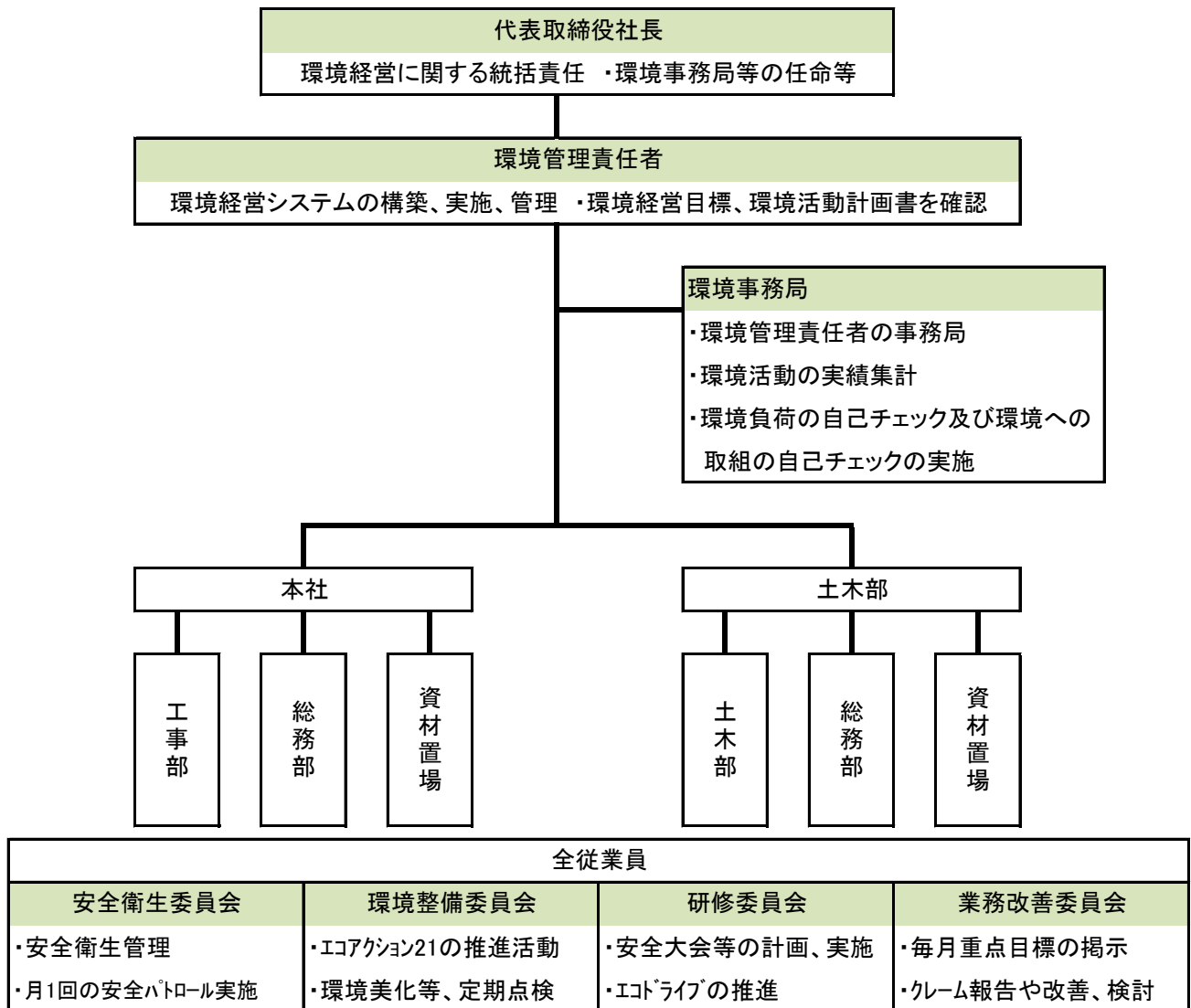
1.組織概要



■ 事業者名及び代表者名	株式会社 アスペック 代表取締役 楠 茂夫
■ 所在地	本 社 長野県長野市大橋南二丁目15番地 土 木 部 長野県長野市南長池478番地1 資材置場 長野県長野市真島町真島字梵天東沖1148他 資材置場 長野県須坂市八町
■ 環境管理責任者氏名 及び担当者連絡先	環境管理責任者 荒井勇治 担当者及び連絡先 工事部工事課 荒井勇治 総務部総務課 倉又麻江 本社 電話:026-283-2051 FAX:026-284-8699 土木部 電話:026-244-1608 FAX:026-259-2986 HP: http://kk-aspec.co.jp/ E-mail: aspec@ec5.technowave.co.jp
■ 事業内容	建設業 土木工事業・舗装工事業・道路側溝補修及び産業廃棄物の収集運搬業
■ 事業の規模	
設立年月日	平成 4年 1月 1日
資 本 金	5,000 万円
売 上 高	1,908 百万円
	第34期(令和6年4月1日～令和7年3月31日)
従 業 員	45 名
延べ床面積(本社)	1,139 m ²
延べ床面積(土木部)	387 m ²
敷地面積(資材置場)	1,976 m ²
敷地面積(土木部資材置場)	17,836 m ²

2. 認証・登録の対象組織・活動

■ 対象組織



2. 認証・登録の対象組織・活動

■ 対象範囲（認証・登録事業者名）

登録事業者名	株式会社アスペック
対象事業所	本社・資材倉庫（常駐者なし）、土木部、全組織・全活動・全従業員を対象
活動範囲	土木工事業、舗装工事業、道路側溝補修業 及び 産業廃棄物の収集運搬

■ 許可の内容

◆ 建設業

許可番号	長野県知事 特-1 第17532号
許可の有効期限	令和7年2月17日 ～ 令和12年2月16日
建設業の種類	土木工事業、舗装工事業、道路側溝補修業、産業廃棄物の収集運搬

◆ 産業廃棄物収集運搬業

許可番号	長野県知事 第2008056549号
許可の有効期限	令和5年10月12日 ～ 令和10年10月11日（令和10年10月11日）
産業廃棄物の種類	がれき類、汚泥、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず

■ 産業廃棄物収集運搬の状況

収集運搬実績	（受託）業としての実績	630.73 t
自社収集運搬実績		1573.96 t

■ 施設等の状況

積替え保管	なし			
運搬車両の種類と台数	1 tトラック	1 台	4 t コンテナ	1 台
	2 t ダンプ	2 台	8 t トラック	1 台
	3 t ダンプ	5 台	10 t トラック	1 台
	4 t トラック	2 台	10 t ダンプ	4 台
	4 t ダンプ	3 台		



3.主な実績

■ 環境負荷の実績

項目	単位	2022年度	2023年度	2024年度
二酸化炭素排出量	kg-CO2/年	501,460	410,387	395,490
電力(事務所)	量 (kWh)	35,600	32,620	33,749
	料金 (円)	3,246,090	1,899,580	2,143,108
灯油(事務所)	量 (L)	3,463	2,594	2,916
	料金 (円)	413,752	331,661	36,027
ガソリン (現場)	量 (L)	22,675	25,273	25,731
	料金 (円)	3,776,175	4,404,866	4,349,058
軽油(現場)	量 (L)	162,127	126,882	119,718
	料金 (円)	18,264,328	17,823,848	16,005,081
液化石油ガス(LPG) (現場)	量 (kg)	2,198	1,293	1,710
	料金 (円)	645,787	336,680	432,710
廃棄物排出量				
一般廃棄物(事務所)	量 (kg)	845	1,040	1,392
産業廃棄物(現場)	量 (t)	4,334	2,990	2,205
水使用量(事務所)	量 (m3)	736	737	864
ネプラス工法(現場)	千円/年	15,235,000	9,790,000	4,250,000
太陽光発電 (事務所)	kWh/年	33,418	33,570	18,534

※購入電力の排出係数は、R5.1.24環境省・経済産業省公表：エバーグリーン取引 0.428 (kg-CO2/kWh)
(令和3年度の実績 調整後排出係数)

4. 環境経営方針

◆ 理念 ◆

アスペックは舗装工事を主とした土木関連事業を通じ、企画提案力と顧客最優先のサービスで地域社会に貢献する建設会社として、当社が掲げる『明るい職場と家庭の繁栄を創造します』の経営理念に繋がる、地球環境の保全を企業活動の最重要使命とします。

◆ 経営方針 ◆

私たちは、これからの地球環境との調和を図れる技術の推進、環境保全が重要課題との認識に立ち、次世代を担うにふさわしい専門工事業者として、環境に配慮した職場づくりと、一人ひとりの社員が主役の環境貢献活動が不可欠であることを念頭に、常に新しい創造性に挑戦し、循環型社会の一翼を担う企業として、自主的・積極的に環境への取り組みを推進します。

また、次世代に繋がる環境活動の推進としてSDGsの目標である「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を達成する為に貢献していきます。

◆ 行動計画 ◆

具体的に次のことに継続的に取り組みます。

- 1) 電力・自動車及び重機械燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
- 2) 建設資材の省資源、廃棄物の3R（減量、再使用、再利用化）の推進
- 3) 水資源の節水
- 4) コピー用紙の削減
- 5) 環境に配慮した施工（ネプラス工法）の推進
- 6) SDGs達成に向けた取り組み
- 7) IT・AIの導入


環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。





制定日 2010年10月26日
改定日 2020年7月1日
改定日 2021年8月23日
改定日 2022年6月30日
改定日 2023年7月4日
改定日 2024年7月30日

代表取締役社長 楠 茂夫


5.環境経営目標及びその実績

環境経営目標項目	単位	基準値		今年度	中長期目標		
		2022年度		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
二酸化炭素排出量 	kg-CO2/年	501,459.8	削減率	2%	3%	4%	5%
			目標	491,430.6	486,416.0	481,401.4	476,386.8
			実績	395,489.6	—	—	—
	原単位(kg-CO2/売上高)	254.0	原単位目標	248.9	246.4	243.8	241.3
			原単位実績	207.3	—	—	—
電力使用量 	kWh	35,600.1	削減率	2%	3%	4%	5%
			目標	34,888.1	34,532.1	34,176.1	33,820.1
			実績	33,748.9	—	—	—
	原単位(kg-CO2/売上高)	18.2	原単位目標	17.8	17.7	17.5	17.3
			原単位実績	17.7	—	—	—
灯油使用量 	L	3,463.4	削減率	2%	3%	4%	5%
			目標	3,394.1	3,359.5	3,324.9	3,290.2
			実績	2,916.4	—	—	—
ガソリン使用量 	L	22,675.5	削減率	2%	3%	4%	5%
			目標	22,222.0	21,995.2	21,768.5	21,541.7
			実績	25,731.1	—	—	—
	原単位(L/百万円)	176.8	目標	173.3	171.5	169.7	168.0
			実績	178.0	—	—	—
軽油使用量 	L	162,127.0	削減率	2%	3%	4%	5%
			目標	158,884.5	157,263.2	155,641.9	154,020.7
			実績	119,718.3	—	—	—
	原単位(L/百万円)	1299.8	目標	1,273.8	1,260.8	1,247.8	1,234.8
			実績	833.0	—	—	—
液化石油ガス(LPG) 	kg	2,198.2	削減率	2%	3%	4%	5%
			目標	2,154.2	2,132.3	2,110.3	2,088.3
			実績	1,709.7	—	—	—
	原単位(kg/売上高)	19.6	原単位目標	12.8	19.0	18.8	18.6
			原単位実績	11.0	—	—	—
一般廃棄物排出量 	kg	845.2	削減率	2%	3%	4%	5%
			目標	828.3	819.8	811.4	802.9
			実績	1,391.7	—	—	—
産業廃棄物排出量 	t	4,334.1	削減率	2%	3%	4%	5%
			目標	4,247.4	4,204.1	4,160.7	4,117.4
			実績	2,204.7	—	—	—
	原単位(t/百万円)	41.0	原単位目標	40.2	39.8	39.4	39.0
			原単位実績	13.2	—	—	—
水使用量 	m3	736.0	削減率	2%	3%	4%	5%
			目標	721.3	713.9	706.6	699.2
			実績	864.0	—	—	—
ネプラス工法 	千円	15,235	増加率	10%	10%	10%	10%
			目標	16,758.5	16,758.5	16,758.5	16,758.5
			実績	4,250.0	—	—	—
太陽光発電発電量	kWh	33,418	実績	18,534.0	—	—	—

6.環境活動計画(詳細)

電力使用量削減	7 2025年以降の目標に 取り組むこと	12 つくる責任 つかう責任	13 関係者共に 気候変動対策を	担当部署：総務部
<p>① エアコンの温度管理 冷房：26℃ サーキュレータの活用 暖房：22℃ 冷たい外気が入らないよう、ドアの開け閉めの工夫</p> <p>② パソコン、プリンター等のスリープモードの活用</p> <p>③ 昼休み時の消灯 消灯時間：12時～13時の1時間</p> <p>④ ノー残業デーの徹底、クールビズの長期化</p> <p>⑤ 時間外における部分点灯 時間外勤務時における照明は、必要最小限の範囲のみとする</p>				
				 <p style="text-align: center;">節電の心がけメッセージ</p>
			<p style="background-color: #FFFF00; padding: 5px;">天井に空気循環用プロペラ設置</p>	

灯油使用量削減	7 2025年以降の目標に 取り組むこと	12 つくる責任 つかう責任	13 関係者共に 気候変動対策を	担当部署：総務部						
<p>①暖房機（ファンヒーター、ストーブ）使用時の室温の温度管理</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <th style="width: 50%;">使用期間</th> <th style="width: 50%;">温度</th> </tr> <tr> <td>11月～4月</td> <td>22℃以下</td> </tr> </table> <p>②灯油の給油時期の管理と使用前のフィルター等の清掃</p> <p>③不使用時の電源オフ</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <th style="width: 50%;">使用しない期間</th> <th style="width: 50%;">5月～10月</th> </tr> </table> <p>④ウォームビズの実施</p> <p>⑤ブラインドの調節で太陽光を有効利用する</p>					使用期間	温度	11月～4月	22℃以下	使用しない期間	5月～10月
使用期間	温度									
11月～4月	22℃以下									
使用しない期間	5月～10月									
				<p style="background-color: #FFFF00; padding: 5px;">室内温度掲示</p>						

ガソリン・軽油使用量削減	7 2025年以降の目標に 取り組むこと	12 つくる責任 つかう責任	13 関係者共に 気候変動対策を	担当部署：工務部
<p>①車両の適正運転（エコドライブの推進） 現場に見合った重機の選定、 unnecessary 道具の積載禁止で車体を軽くする努力をする タイヤの空気圧のチェック 環境に配慮した運転「エコドライブ」で燃費を向上させ、二酸化炭素などの排出量を減らす</p> <p>②アイドリングストップの励行</p> <p>③車両・建設機械の定期点検 定期的な点検整備をして、燃費と安全性を向上させる オイル交換をこまめに、燃費を向上させる</p> <p>④効率的なルートを選択 カーナビの積極的な利用で、効率的な営業ルートの策定をする</p> <p>⑤建設機械の対策型機種種の優先使用と購入の検討</p> <p>⑥機械操作の向上</p> <p>⑦ハイブリッド車に全車変更</p>				
				<p style="background-color: #FFFF00; padding: 5px;">エコドライブ講習会</p>

一般廃棄物排出量削減



担当部署：総務部

①ごみの排出量の把握と管理

把握方法	ごみの回収前に必ず計量
------	-------------

②ペーパーレス化

複写機の機能（スキャナ機能、両面・集約印刷）を積極的に利用する

Faxをデータ受信。必要な物だけプリントアウトする

パソコンからの印刷の前にプレビュー画面で確認してから印刷してミスコピーの削減に努める

③リサイクルの徹底

社内書類は裏紙（機密文書は除く）を使用する

両面使用済みの用紙はリサイクルにまわす

社内文書は使用済み封筒を再利用する

メモ用紙やスクラップ台紙への利用



古封筒再利用

④ごみの分別の徹底

従業員の分別意識が向上するよう、分かりやすくポスターなどを掲示

法定保存年限が経過した帳簿書類等は、随時処分する

⑤ゴミを持ち込まない

マイカップの利用や、再利用できる容器の使用（お弁当箱等）



コピー用紙再利用

廃棄物の重量の視覚化

ごみ分別時に重量を計測し表に記入することで、数値を視覚化する

産業廃棄物排出量削減



担当部署：工務部

①廃棄物の適正処理

マニフェストにより適正処理し、許可を受けた産廃処理委託業者に引き渡す

②産廃排出量の把握

把握方法	産業廃棄物管理票（マニフェスト）による把握
------	-----------------------

③分別のルール

現場	施工場所で分別してから運ぶ
第1資材ヤード	燃えるもの、廃プラ、木くず、金属くずに分ける
土木部	木くず、ダンボール、ダンボール以外の紙、廃プラ、鉄くずに分別する

④3R活動

Reduce(リデュース)：減らす

Reuse(リユース)：再利用する

Recycle(リサイクル)：再資源化する

水使用量削減



担当部署：総務部

① 日常的な節水

節水のステッカーを貼り、節水の意識を高める

② 井戸水のメーターの管理

③ 水漏れの点検と管理

総務部で点検を行い、水漏れ等の不具合があった場合はすぐに対応する

④ 使用後は確実に栓を締める。水量を抑えるために元栓の調整をする



節水呼びかけメッセージ

ネプラス工法の推進



担当部署：工務部

① 受注先、現場でのネプラス工法の提案

公共工事	道路改良工事、側溝改良工事、道路維持修繕工事等
環境	建設廃材80%削減、掘削残土は100%削減、CO2排出量77%削減
リサイクル	側溝の使える部分（上部以外の部分）は利用

② ホームページで情報の公開

当社ホームページ <http://kk-aspec.co.jp> にて施工実績やネプラス工法について詳しく掲載

③ ネプラス工法の講習会への参加

講習会に出席することで、業界内での情報交換などを行う



側溝の痛んだ部分だけ取り除き使える部分は利用する



太陽光発電 電力量の把握



担当部署：総務部

① 社屋2F・3F屋根に太陽光パネルが設置されている

208.4W×129枚

② 毎月の電力量・売電金額を把握していく



地下水循環型地中採放熱システム工法協会の会員登録

二酸化炭素排出量を実質ゼロにする目標に向かって、再生可能エネルギーの1つである地中熱の利用を促進するため、当社は、地下水循環型地中採放熱システム工法協会に会員登録しています。

システムの構築に向けた研究段階から熱交換槽等の施工に携わり、実用化された現在も普及に努めています。

※地下水循環型地中採放熱システム工法協会パンフレットより抜粋

再生可能エネルギー地中熱利用のメリット

空気熱源と地中熱源を比べたら

冷房時ヒートポンプの動き
 空気熱源冷却 23℃
 地中熱源冷却 8℃
 メリット
 7℃
 15℃
 30℃
 外気温

暖房時ヒートポンプの動き
 空気熱源冷却 50℃
 地中熱源冷却 35℃
 メリット
 0℃
 15℃
 50℃
 外気温

重要なポイントは、供用開始後の地中熱源温度。初期温度(15℃)を如何に維持するか。

地下水循環型地中採放熱システムとは

①地中採熱の産とし穴 ②熱枯れのない地中採熱の例 ③人為的な地下水流れを如何に創る

地下水流れを人工的に創る
 地下水流れ
 回転の発熱
 重力を利用し創る方向に
 地下水の流れを人工的に創る

これ地中初期温度を15℃をキープ

井戸ポンプで地下水を地表下で取水し、重力浸透により地下水層に還元する。
 地下水の鉛直方向の強制循環
 経路中に熱交換パイプを敷設
 地下水循環型地中採放熱システム (Heat-Gw-Power) と命名

NEDOと共同研究を実施(2014-2018年)

更にコストパフォーマンス高めたCASCADE

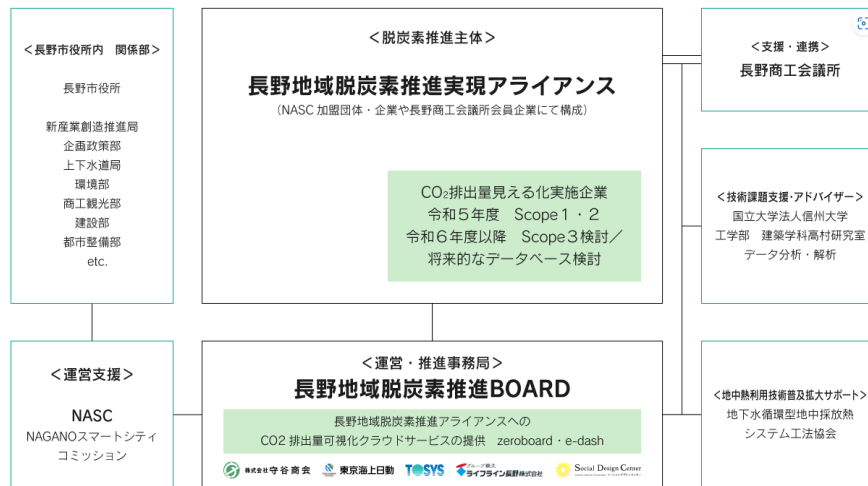
	Heat-Gw-Power*基本型	Heat-Gw-Power*CASCADEタイプ	オープンループ方式
イメージ	NEDOと共同開発技術	2次採熱	従来の技術
取水方式	開穴取水・開穴取水	連続取水・連続取水	連続取水・採熱後地中還元
掘水量	30% (少)	50% (中)	100% (大)
熱媒特性	熱ポテンシャル低位	熱ポテンシャル中位	熱ポテンシャル高位
評価	△	△	△

これらをまとめて、解決するのが地下水循環型地中採放熱システムです!

CO2排出量可視化・削減の促進

長野地域脱炭素実現推進協議会に加入し、長野市からの補助金を活用し、「CO2排出量可視化・削減」に取り組んでいます。

「地域ぐるみの脱炭素を実現し、長野地域の未来を切り拓く」を合言葉に活動しています。



6.環境活動計画(その他)

タブレット端末導入



担当部署：総務部

必要なデータをクラウド（BOX）に保管。会社外からでも必要なデータを見たり、書き込んだりすることが出来るようにした。
移動の時間を省き、効率よく業務を遂行し生産性を上げる。

2023年度売上高	2024年度売上高
2,445,000,000円	1,908,000,000円

537,000,000
円減少↓

manifestoの電子化



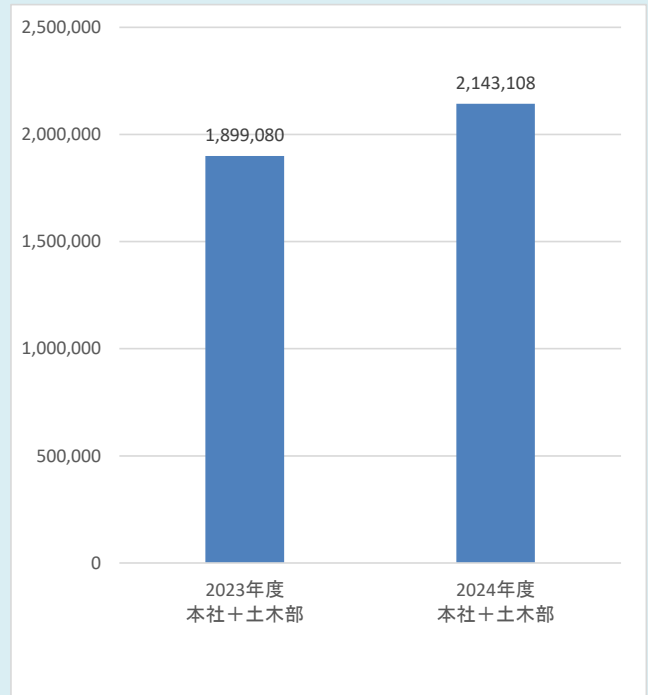
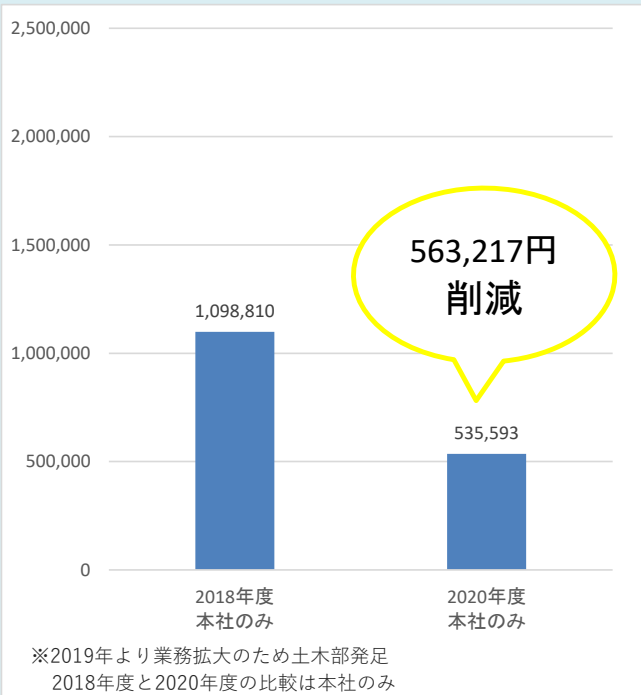
担当部署：総務部

manifesto情報を電子化し、排出事業者、収集運搬業者、処分業者の3者が情報処理センターを介したネットワークでやり取りする。
印刷作業がなくなることで、業務効率が上がる。

2023年度使用件数	2024年度使用件数
35件	82件

47件増加

2019年10月より購入電力会社をイーレックス(株) (エバーグリーン・リテイリング(株)) にすることによりコスト削減



企業活動を通して、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に意欲的に取り組む企業等を登録・PRする長野県独自の制度



SDGs達成に向けた経営方針

弊社の経営理念である

「私たちは企画提案力を最大限発揮し顧客最優先のサービスで地域社会に貢献すると共に、明るい職場と家庭の繁栄を創造します」は、SDGsの達成と目的を同じくするものであり、社員一人ひとりがそのことを自覚してそれぞれの役割を果たしていくことによりSDGsの達成に貢献していきます。

SDGs達成に向けた重点的な取組

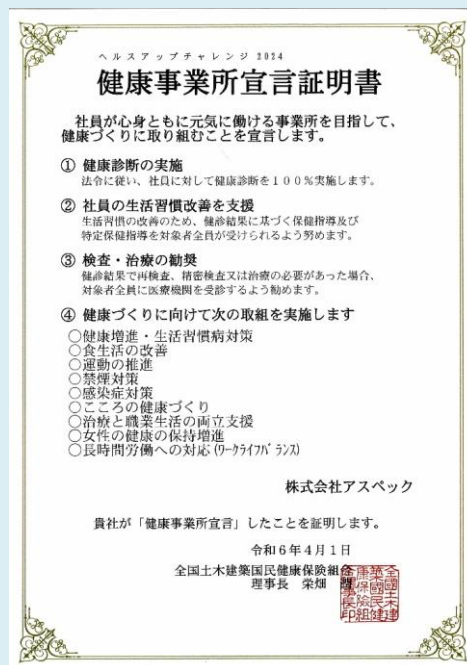
重点的な取組	2030年に向けた指標	指標の進捗状況 (2025年3月31日現在)
エコアクション21の活動に沿ったCO2の削減	CO2排出量の20%削減	2020年度：531,695kg/CO2 ↓ 2024年度：395,490kg/CO2
ネプラス工法の普及（コスト低減・省資源・省エネ・工事期間の短縮）	年間受注件数 10件	年間受注件数⇒2件
労働生産性向上に繋がる合理化手法の導入件数	IT・AI等の導入含め5件	特になし



健康経営優良法人認定



社員とその家族が安心して幸せに暮らしていけるような仕組みを作りたいという思いから「健康経営」の取組を進めてきました。
「ヘルスアップチャレンジ」宣言をし、社員が心身ともに元気に働ける事業所を目指して活動しています。



地域貢献

長野市消防団協力事業所表示制度

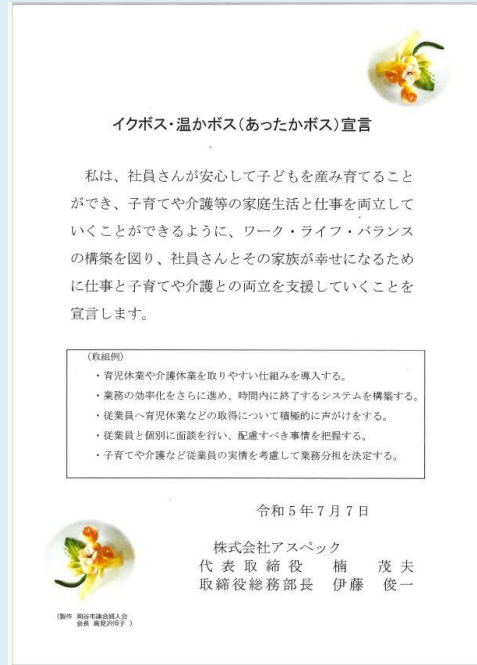
地域の一員として、地域活動を通じて地域との交流を深めると共に、災害発生時には、防災活動に協力します。消防団員の活動しやすい環境を整えています





「社員の子育て応援宣言」・「イクボス・温かボス宣言」

社員が安心して子どもを産み育て、子育てや介護等の家庭生活と仕事を両立していくことができるよう「社員の子育て応援宣言」と「イクボス・温かボス宣言」をしました。



寄付型自販機の設置

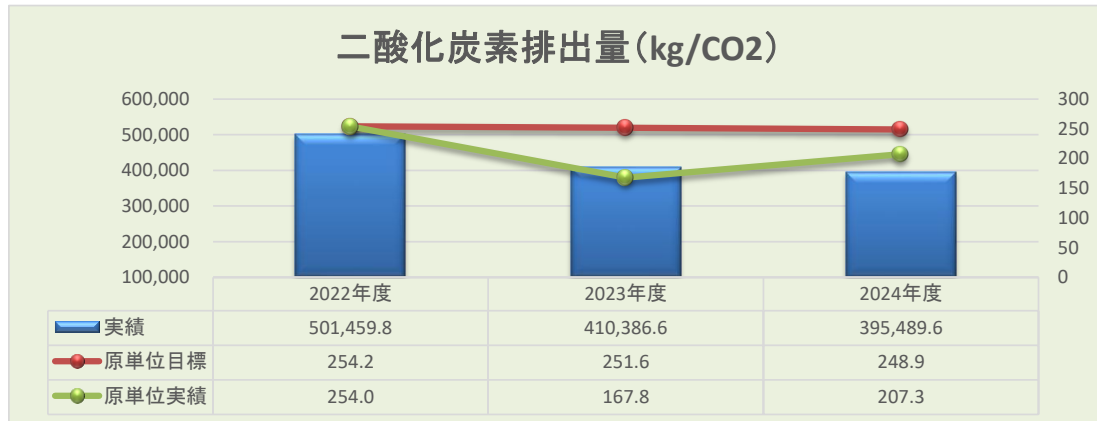
自販機を媒体として市民へ利用して頂き、子育て支援に対する啓蒙活動を広め、市の「ヤングケアラー」の支援に活用して頂くよう、「長野市子育て支援自動販売機」を設置しました。



7.環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

二酸化炭素排出量削減

取組目標：基準年度実績より2%減



■総量■

目標	実績	達成率	評価
491,430.6 kg-CO2/年	395,489.6 kg-CO2/年	124.3%	達成

■原単位■

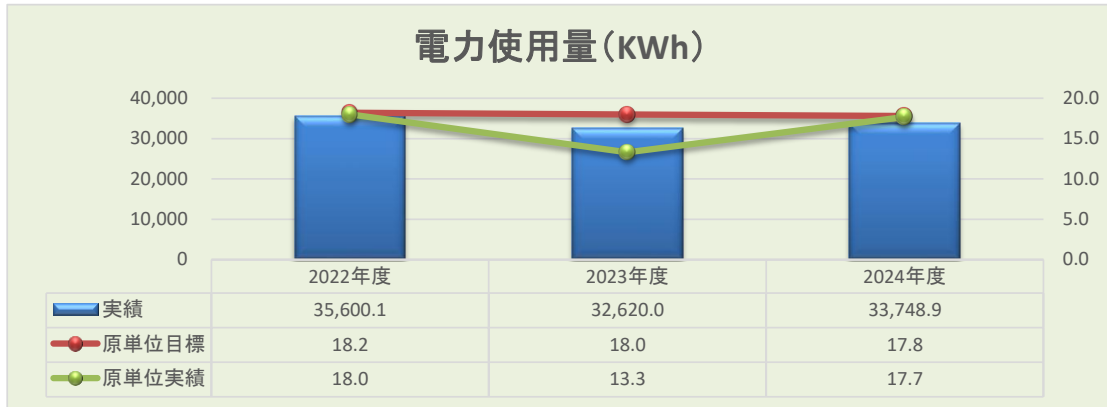
目標	実績	達成率	評価
248.9 kg-CO2/百万円	207.3 kg-CO2/百万円	120.1%	達成

◆取組結果

総量・原単位とも目標を達成することができた。売上高が減少したため、それに比例し排出量も減少した。原単位実績は昨年よりも増加してしまった。

◆次年度の取組

- ・講習会などを継続して行い、社員一人一人の意識を高める。
- ・古い車両や重機の更新、ハイブリット車への買い替えを順次進めていく。



■ 総量 ■

目標	実績	達成率	評価
34,888.1 kWh	33,748.9 kWh	103.4%	達成

■ 原単位 ■

目標	実績	達成率	評価
17.8 kWh/百万円	17.7 kWh/百万円	100.6%	達成

◆ 取組結果

総量・原単位ともに目標を達成することができた。
 平年よりも気温の高い日が続きエアコンの使用が増え、昨年よりも実績が増加してしまった。だが、完全週休二日制になったため全体的に使用量を削減することができた。

◆ 次年度の取組

- ・ 設定温度の徹底、エアコンフィルターの清掃を行う。
- ・ 所定労働時間内での業務ができるように効率の良い割り振りや、日程調整をする。
- ・ 省エネ機器へ入れ替える
- ・ クールビズ・ウォームビズの実施する。
- ・ 不使用時は電源を切る。

灯油使用量削減

取組目標：基準年度実績より2%減



■ 総量 ■

目標	実績	達成率	評価
3,394.1 (L)	2,916.4 (L)	116.4%	

◆ 取組結果

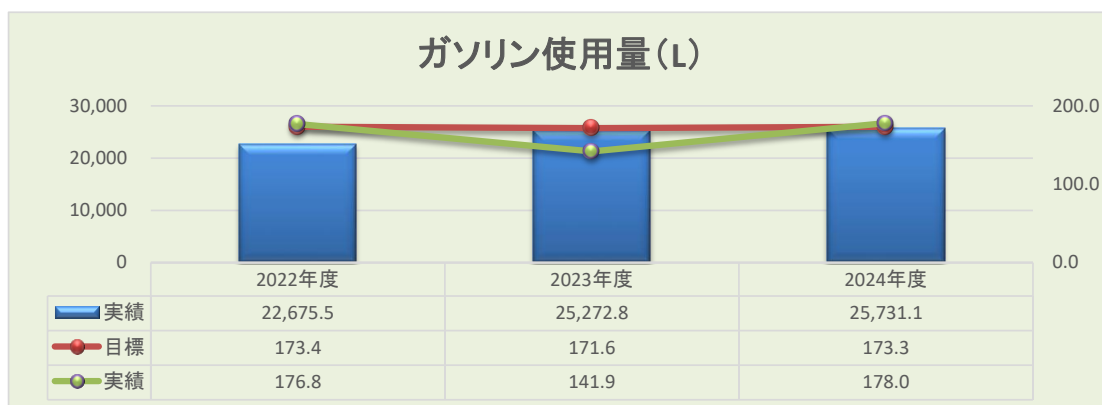
前年度と比較すると実績は上がってしまったが、目標は達成することができた。今冬は全国的に低温傾向になった為、昨年よりも使用量が増加したと考えられる。

◆ 次年度の取組

- ・ 設定温度の管理を徹底する。
- ・ 暖房機器の点検清掃をこまめに行う。
- ・ 不使用时は電源を切る。
- ・ ブラインドを調節し、太陽光を有効活用する。
- ・ ウォームビズの実施等徹底していく。
- ・ 灯油の残量の管理を徹底していく。

ガソリン使用量削減

取組目標：基準年度実績より2%減



■ 総量 ■

目標	実績	達成率	評価
22,222.0 (L)	25,731.1 (L)	86.4%	×

■ 原単位 ■

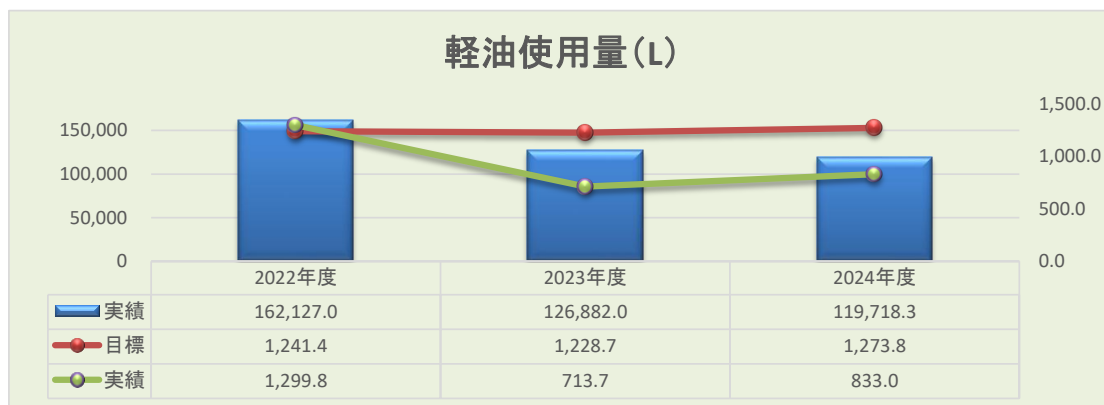
目標	実績	達成率	評価
173.3 (L/百万円)	178.0 (L/百万円)	97.4%	×

◆ 取組結果

総量・原単位ともに目標を達成することができなかった。職員の増加、営業車両の増加に伴い使用量が増加した。増加傾向にある為、エコドライブ等について意識を高めていく。

◆ 次年度の取組

- ・ 車両や重機の適正運転（エコドライブ）を推進していく。
- ・ 不必要な道具を乗せないなど車体の軽量化を心掛ける。
- ・ カーナビの積極的利用による効率的なルートの算定等を徹底する。
- ・ 車両増加に伴う使用量増加の把握に注意していく。



■ 総量 ■

目標	実績	達成率	評価
158,884.5 (L)	119,718.3 (L)	132.7%	達成

■ 原単位 ■

目標	実績	達成率	評価
1,273.8 (L/百万円)	833.0 (L/百万円)	152.9%	達成

◆ 取組結果

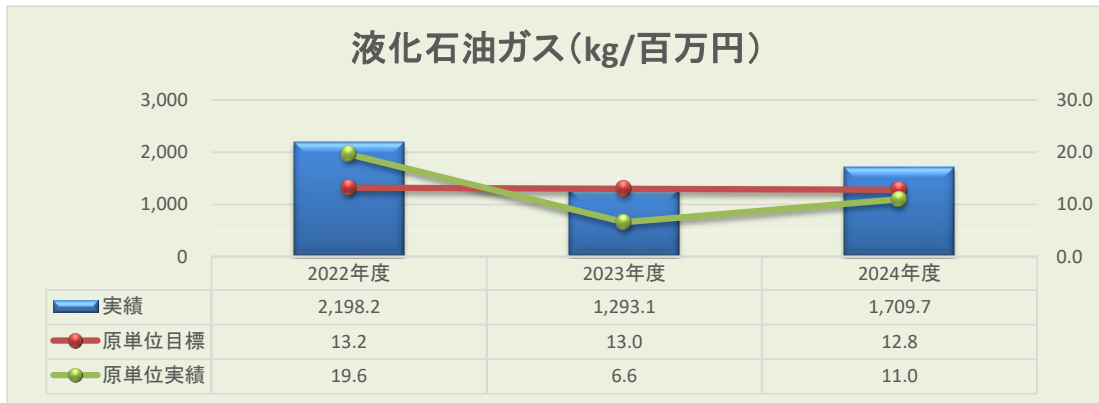
総量・原単位ともに目標を達成することができた。重機、ダンプトラック等の買い替えを行っているため燃費が良くなっている。年々減少傾向にあるので今後も可能な範囲での削減を努める。

◆ 次年度の取組

- ・車両や重機の適正運転（エコドライブ）を推進していく。
- ・カーナビの積極的利用による効率的なルートの算定等を徹底する。
- ・排出ガス対策型機械の優先使用と購入を推進していく。

液化石油ガス（LPG）使用量削減

取組目標：基準年度実績より2%減



■ 総量 ■

目標	実績	達成率	評価
2,154.2 (kg)	1,709.7 (kg)	126.0%	達成

■ 原単位 ■

目標	実績	達成率	評価
12.8 (kg/百万円)	11.0 (kg/百万円)	116.4%	達成

◆ 取組結果

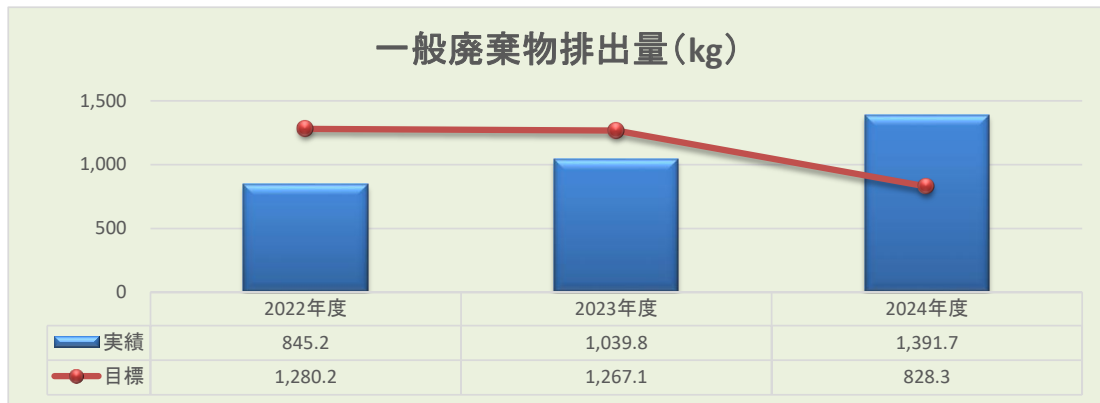
総量・原単位ともに目標を達成することができ
た。
全体的に昨年よりも増加してしまった。

◆ 次年度の取組

- ・ 使用時に節約を意識する。
- ・ こまめな温度設定を心掛ける。

一般産業廃棄物排出量削減

取組目標：基準年度実績より4%減



■ 総量 ■

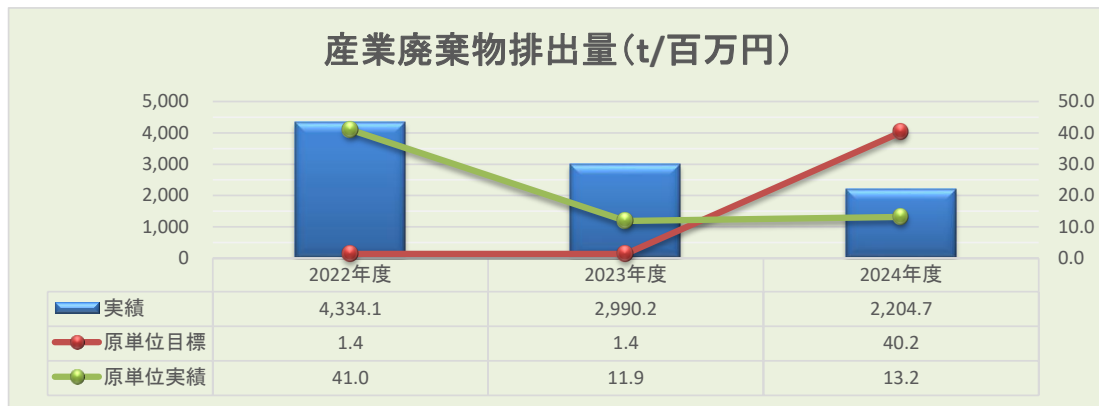
目標	実績	達成率	評価
828.3 (kg)	1,391.7 (kg)	59.5%	×

◆ 取組結果

目標を達成することができなかった。
職員増加に伴い年々増加傾向にあると考えられるが、改めて一人一人がペーパーレス化、ゴミの分別等について考えゴミの削減に繋げていく必要がある。

◆ 次年度取組

- ・ペーパーレス化を推進していく。
- ・ゴミの分別の徹底をしていく。
- ・ミスコピーを減らす。
- ・事務員の増加による要因もあるため、今後の排出量に注意していく。



■ 総量 ■

目標	実績	達成率	評価
4,247.4 (t)	2,204.7 (t)	192.7%	

■ 原単位 ■

目標	実績	達成率	評価
40.2 (t/百万円)	13.2 (t/百万円)	304.5%	

◆ 取組結果

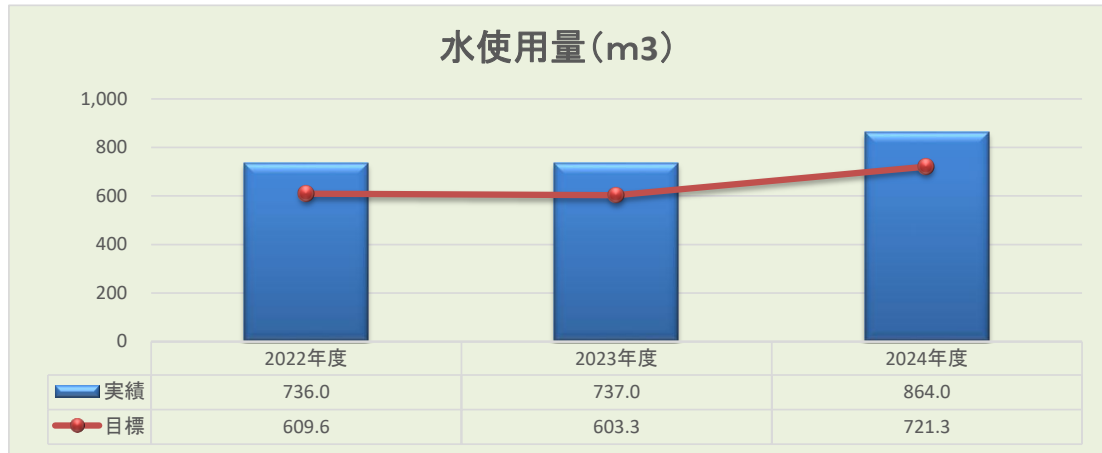
総量・原単位ともに目標を達成することができた。年々減少傾向にある。

◆ 次年度の取組

- ・安全パトロールでの確認を行い、引き続き削減に努めていく。
- ・廃棄物の適正処理、産廃排出量の把握、3R運動 分別のルール の周知徹底をしていく。

水使用量削減

取組目標：基準年度実績より**4%減**



■ 総量 ■

目標	実績	達成率	評価
721.3 (m3)	864.0 (m3)	83.5%	×

◆ 取組結果

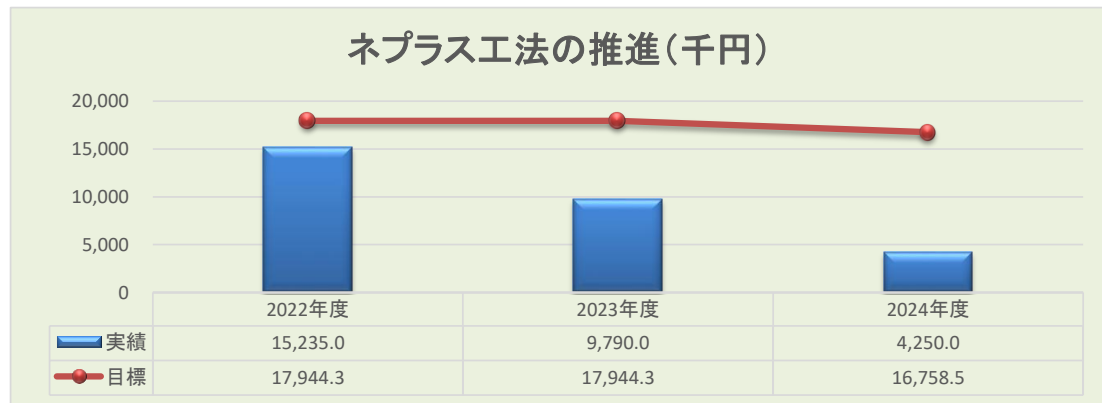
目標を達成することはできなかった。年々増加している為、改めて節水の声掛けを行う。

◆ 次年度の取組

- ・日常的に節水を意識する。
- ・水漏れの点検と管理をこまめに行う。
- ・元栓を調整し水量を抑制する。

ネプラス工法の推進

取組目標：基準年度実績より**10%増**



■ 総額 ■

目標	実績	達成率	評価
16,758.5 (千円)	4,250.0 (千円)	25.4%	×

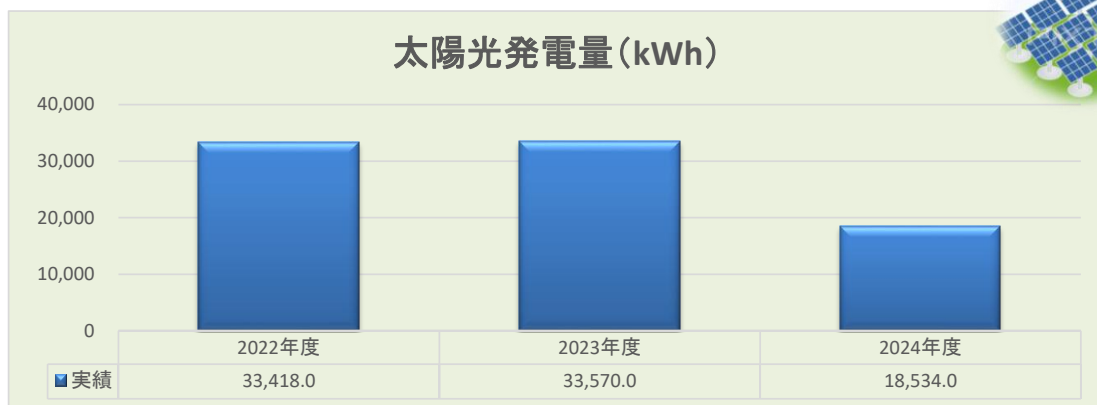
◆ 取組結果

目標を達成することができなかった。受注件数は昨年と変わらなかったが、実績が減少してしまった。

◆ 次年度の取組

- ・現場等でのネプラス工法の提案をする。
- ・パンフレット等で宣伝をする。
- ・ホームページで積極的にPRしていく。

太陽光発電量



■総量■

◆取組結果

天候に左右されるため目標値は持たないが、売電量を知ることで自然エネルギーへの関心を高める。
太陽光発電の不具合により、10月頃から発電が行えていなかった。

◆次年度の取組

- ・引き続きデータの集計をしていく。
- ・太陽光発電が行えているか定期的に確認する

8. 環境関連法規制の遵守状況

(1) 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

適用法	要求事項	遵守状況の確認及び評価の結果
廃棄物処理法	委託契約の書面	○
	マニフェストの管理	○
	実績報告書	○
	産業廃棄物収集運搬業許可証 (令和5年10月12日 更新許可)	○
資源有効利用促進法	再生資源利用促進計画書	○
建設リサイクル法	対象工事における再資源化等報告書	○
騒音規制法	特定建設作業実施届出書	○
振動規制法	特定建設作業実施届出書	○
フロン排出抑制法	簡易点検表による管理	○
自動車リサイクル法	引き渡し時における適正な処理 (リサイクル券)	○
家電リサイクル法	引き渡し時における適正な処理 (リサイクル券)	○
消防法	少量危険物の管理	○

(2) 違反、訴訟等

環境関連法規の遵守状況は、4月に環境管理責任者を中心として確認し調べた結果、環境法規への違反はありませんでした。

また過去3年間違反・訴訟の無いことを報告します。

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

● 全体評価

(1)	環境経営方針 環境経営方針については変更ありません。
(2)	環境関連法規等の遵守状況 法規等の遵守評価については問題ありません。
(3)	環境経営目標の達成状況 二酸化炭素排出量・電力使用量・灯油使用量・軽油使用量は削減目標を達成できたが、ガソリン使用量・一般廃棄物排出量・水使用量は達成できなかったため今後も削減に努めていく。職員増加に伴う使用量等増加の把握に注意する。 ノー残業デーの励行、休日出勤の際の代休の取得の励行に取り組んでいく。
(4)	環境活動計画の実施状況 スケジュール通りに実施されています。
(5)	実施体制 特に変更の必要はありません。
(6)	外部からの苦情等への対応 特にありません。
(7)	その他 特にありません。

● 見直しの結果

- 昨年度同様、化石燃料削減に向け、手直し工事ゼロを目標に施工を行っていく。
- 各自の技能向上により、作業効率をあげ、CO2排出量の少ない工事を目指す。
- 使用機械や車両のハイブリッド車・低排出ガス機械等への買い替えを進めていく。
- 残業の圧縮努力や休日の増加により、環境負荷を減少させる。
総労働時間が減ったことで、生産性が落ちることのないように、
無駄を省いて、効率の良い作業をする。
- 社員とその家族が健康に過ごしていけるよう健康経営に力をいれていく。
- 全体を通して目標の達成ができているので引き続き取り組みを意識していく。